

ERIMO

襟裳岬は2010年8月5日、「ピリカ丸」に指定された。ピリカ丸とはアイヌ語で「美しい形」を意味し、アイヌの物語や伝承、祈りの場、言語に彩られた優秀な景勝地群を総称するものである。

ちなみに... 襟裳岬の名の由来は、アイヌ語のオネエム。「大きな突き出たところを意味している。

悲恋沼 悲しい恋の物語

昔、あかし、和人とアイヌの恋物語があく。和人の名は「久作」と伝え聞き、アイヌの名は「マエラ」と言う。久作とマエラはふと川で思いを交わす中、はやり人目を忍んで落ち合うようになった。しかし、彼らの恋は当時のアイヌの争いと、和人の引返しくより長くは続かなかった。永久の別れを告ぐ久作の船出を悲しめ、眼を涙で曇らせ、船を見送るマエラの姿があかしがいつの間にかマエラの姿は無く、その後、沼が生れ出たのであった。それから、悲しい恋の涙で出来た沼、ついに「悲恋沼」として云い伝えられている。



黄金道路の由来

道が険からこの土地を切り開いて道路を作ることには、その作業には長い月と黄金を敷き詰めるほどの巨額の費用が投じられたため、そのことから「黄金道路」と名付けられた。



百人湊の名の由来と一石一宇塔

百人湊の名は、和人が名付けたものである。その名の由来は、南部藩士某艦隊の餓死説、シトヤンの戦いのアイヌ惨殺説が有力である。中でも「金堀罪人処刑説」が有力である。百人湊は海霧や海が時化るとも舟船の遭難で、溺死死ぬ者も多かった。その状況に住民は心を痛め、追悼の意を込めてお経を70石一宇塔写経し、一石一宇塔を立てた。冥福と安全な航海が出来るようにという願いが込められている。



<庶野さくら公園> 大正から昭和にかけて地域の有志により大切に育られ、昭和

30年には「北海道観光地選」に入選し、桜の名勝地として知られてきた。敷地内には推定樹齢100年の赤松や、

推定樹齢300年の2本の桜が交差した「夫婦桜」がある。

